

FUTURE BEAUTY

日本ファッション：不連続の連続

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

2014年3月21日（金・祝）～5月11日（日）

【開催概要】

京都国立近代美術館

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

2013年12月

開催趣旨

この度、京都国立近代美術館（MoMAK）と公益財団法人 京都服飾文化研究財団（KCI）は、日本の現代ファッションをテーマとする展覧会「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」（2014年3月21日～5月11日）を開催いたします。

本展では、20世紀後期に世界を注目させ現代ファッションを先導したデザイナーからゼロ年代の新たな感性を持った若手デザイナーまで、日本ファッションが持つ創造性とその力強いデザインに潜む文化的背景に焦点を当てます。

20世紀後半、日本ファッションは、日本経済の成長と共に世界へ羽ばたき、その独自性を開花させました。1970年代、高田賢三、三宅一生、森英恵らの活躍が欧米で注目されはじめます。彼らに導かれて、1981年、川久保玲や山本耀司がパリにデビュー。西洋ファッションの伝統的な美意識から解放された日本人デザイナーの作品は、〈前衛的〉と評され、その表現に賛否両論が飛び交いました。しかし程なく、彼らが見せた新しい服作りの発想、服と身体の関係、そして造形美は、その後のファッションに多大な影響を与えました。

平面性、素材の重視、無彩色など、三宅、川久保、山本らの作品には、彼ら独自の才能のみならず日本の文化が長年かけて培った伝統的な感性を看取することができます。西洋中心だったファッション界に彼らが与えた衝撃の大きさは、彼らを尊敬するデザイナーが国籍問わず存在し、その〈前衛的〉と評された表現がさまざまなレベルで一般化されているのをみれば明らかです。また、彼らの最も大きな功績は、アートからの視線を引き付けるなど、ファッションの可能性と、西洋の美意識の枠内に留まっていたファッションの創造性の扉を広く世界へと開いたことだといえるでしょう。

彼らに続く世代の日本人デザイナーたちは、時にアニメやマンガ、インターネットといったサブカルチャーと結びつき、高度にシステム化されたファッションのさまざまな制度から距離を置くなど、社会の嗜好や変化、そこに潜む問題を鋭敏に感じ取りながら制作しています。彼らの作品からは、服と人との新たな関係性の構築を目指そうとする姿勢を見ることができます。

時代の先端を歩むデザイナーの才能。それを最大限に引き出し、そのアイデアの具現化を支えることができたのは、京都に代表される高い職人技と探求心を兼ね備えた日本の工芸技術だったことも見逃せません。受け継がれてきた固有の美意識や独自の技法は、現代ファッションの上にも形を変えながら見事に生かされます。本展では、デザイナーと協業して新たな作品を生み出す京都の工房や職人の技術とそのポテンシャルに注目し、世界に評価される日本ファッションの独自性を、服と共に、写真、映像などで通観します。

「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展は、2010年のバービカン・アート・ギャラリー（ロンドン）を皮切りに世界5都市を巡回し、高い評価を受けた「Future Beauty」展をもとに、〈着る〉文化の伝統を守り革新し続ける京都と現代ファッションのかかわりを浮き彫りにしながら、新たに構成します。

開催要項

展覧会名（和）——Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続

展覧会名（英）——Future Beauty : The Tradition of Reinvention in Japanese Fashion

会場——京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

会期——2014年3月21日（金・祝）～5月11日（日）

開館時間——午前9時30分～午後5時

*会期中の毎週金曜日は午後8時まで開館（入館はいずれも閉館30分前まで）

休館日——毎週月曜日 *ただし4月28日（月）、5月5日（月・祝）は開館

入場料——一般／当日：1,200円、前売：1,000円、団体：900円

大学生／当日：800円、前売：600円、団体：500円

高校生／当日：500円、前売：300円、団体：200円

中学生以下／無料

*団体は20名以上、消費税込み

前売券販売——2014年1月13日～2014年3月20日までの期間限定販売

チケットぴあ（Pコード：765-962）、ローソンチケット（Lコード：58774）、

セブン-イレブン各店舗、京阪神の主要プレイガイドなど

*心身に障がいのある方と付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください。）

*本料金で同時開催の「チェコの映画ポスター」展、コレクション・ギャラリー（4階展示室）もご覧になれます。

主催——京都国立近代美術館

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

後援——経済産業省、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、

京都市内博物館施設連絡協議会、京都商工会議所、

一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、

一般社団法人日本ボディファッション協会

特別協力——株式会社ワコール

協力——株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社

展示デザイン——藤本壮介（藤本壮介建築設計事務所）

展示構成

I. 陰翳礼讃

20世紀後半、日本のファッションは、日本経済の成長と共に世界に羽ばたき、その独自性を開花させました。川久保玲と山本耀司が1980年代初頭にパリで発表した作品は、欧米の美意識から解き放たれたその表現から〈前衛的〉と評され、賛否両論が飛び交いました。

彼らが好んで用いた色調は、谷崎潤一郎が『陰翳礼讃』で語る「光りと蔭との使い分け」、あるいは墨絵にも似た黒の極めて豊かな階調表現でした。それは、多彩な色が溢れていた当時の欧米ファッションに対するアンチテーゼとして、世界に「黒の衝撃」を引き起こします。この時の主調色・黒は、日本ファッションの代名詞となり、20世紀後期の時代の色となったのです。

II. 平面性

日本ファッションはしばしば、フォルムがない、と評されます。そこには、日本人デザイナーが女性の身体を際立たせる西洋的な衣服構成にとらわれていないという意味も込められていました。平面的な構成を自由に操り、いわば身体を理性的に彫塑しない彼らの服は、身体と服との間に空間、〈間^ま〉を生み、時には身体から離れた自由な造形を生み出します。

日本の着物に特徴的な平面的構造は世界各地に見られますが、これを知的な現代服に昇華させたのは、三宅一生の「プリーツ・プリーズ」でした。川久保玲は初期の作品に見られるこの特徴を、近作でも明らかにしています。また、平面から立体を形作る折り紙の思考法も日本人デザイナーに特徴的な服作りへのアプローチといえます。

西洋が長く求めてきた構造の秩序から離れて別種の構造を提示した彼らの創作は、ファッションを服飾造形の新たな次元へと導いたのです。

III. 伝統と革新

素材に対する日本人デザイナーの鋭い感性は、世界から高い評価を受けています。三宅、川久保、山本らは早くからテキスタイル・デザイナーとの協働による素材の開発に着目し、独自性のある服を作ってきました。その姿勢は、より若い世代の渡辺淳弥、マトフらにも明確に見られます。

新しい表情や質感、機能性を求めるデザイナーの要求に、日本の繊維業界は高度な染織技術と先端テクノロジーで応えてきました。中でも京都は、伝統文化が育んだ高い職人技と新しい技術を取り込み進化させる探求心を兼ね備えた歴史的風土から、多くのデザイナーとの取り組みを行っています。日本ファッションは、デザイナーの創造力と日本の伝統が交差した地点で生み出されます。

IV. 物語を紡ぐ（仮題）

インターネットの普及やファスト・ファッションの隆盛によって、現在の私たちはファッションを手軽に楽しむことができます。裏を返せば、モノや情報が瞬時に容易に「消費」される時代であるといえます。そうした流れの中であって、若い世代のデザイナーたちは、生産プロセスへのこだわりという日本ファッションの伝統を受け継ぎながら、サブカルチャーからの引用、あるいは独自の物語（ストーリー）やコンセプトを、服に織り込んでいきます。

彼らの多くは、着る人が日常的な行為の中で彼らの服作りの姿勢に気づき、共感してもらおう服を作り出そうとしています。それは、着る人が服と対話しながら、作り手から託された物語の続きを紡いでいくことができる服ともいえるでしょう。失われつつある一着の服、一切れの布の価値、そして服と人の根源的な関係が、今、見直されつつあります。

出展品

本展は、20世紀末以降、世界が熱い視線を向けた日本人デザイナーの衣装作品、約100点を中心に展示します。

同時に、コレクション・ショー映像やDM、パンフレット、コレクションの招待状等のプリント・マテリアルにより、日本ファッションが伝えた創造の概念と、それが創り出した前衛的なイメージを重層的に展示します。

出展ブランド（予定）

セクション1：陰翳礼讃

COMME des GARÇONS（川久保玲）
JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS（渡辺淳弥）
matohu（堀畑裕之+関口真希子）
NICOLE（松田光弘）
Yohji Yamamoto（山本耀司）

セクション2：平面性

ANREALAGE（森永邦彦）
COMME des GARÇONS（川久保玲）
ISSEY MIYAKE（三宅一生）
ISSEY MIYAKE（滝沢直己）
minä perhonen（皆川明）
mintdesigns（勝井北斗+八木奈央）
OHI YA?（大矢寛朗）
SHINICHIRO ARAKAWA（荒川真一郎）

セクション3：伝統と革新

ANREALAGE（森永邦彦）
COMME des GARÇONS（川久保玲）
FINAL HOME（津村耕佑）
HANA E MORI（森英恵）
ISSEY MIYAKE（三宅一生）
ISSEY MIYAKE（宮前義之）
ISSEY MIYAKE（高橋悠介）
JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS（渡辺淳弥）
KENZO（高田賢三）
KOJI TATSUNO（立野浩二）
mame（黒河内真衣子）
MASAYA KUSHINO（申野真也）
matohu（堀畑裕之+関口真希子）
NORITAKA TATEHANA（館鼻則孝）
sacai（阿部千登勢）
S/STERE（小島悠）

SOMARTA (廣川玉枝)
tao COMME des GARÇONS (栗原たお)
TARO HORIUCHI (堀内太郎)
TOKIO KUMAGAÏ (熊谷登喜夫)
UNDERCOVER (高橋盾)
MIHARAYASUHIRO (三原康裕)
Yohji Yamamoto (山本耀司)

セクション4：物語を紡ぐ (仮題)

ANREALAGE (森永邦彦)
ASEEDONCLOUD (玉井健太郎)
Aski Kataski (牧野勝弘)
Eatable of Many Orders (新居幸治+新居洋子)
hatra (長見佳祐)
ohta (太田雅貴)
writtenafterwards (山縣良和)

映像・写真

20471120 (中川正博+LICA)
beauty:beast (山下隆生)
横尾香央留 (写真：ホンマタカシ)
MIKIO SAKABE (坂部三樹郎+シュエ・ジェンファン)
Né-net (高島一精)
THEATRE PRODUCTS (武内昭+藤原美和)

所蔵先 (予定)

衣装

公益財団法人 京都服飾文化研究財団
株式会社アンリアレイジ、株式会社三宅デザイン事務所、株式会社ヨウジ ヤマモト、
株式会社 LEWS 纏、公益財団法人三宅一生デザイン文化財団、株式会社ソスウ インターナショナル、
串野真也、ミナ ペルホネン、他

写真

ホンマタカシ写真事務所

プリント・マテリアル

公益財団法人 京都服飾文化研究財団、プライベートコレクション

映像協力

株式会社エイ・ネット、株式会社ミキオ・サカベ、株式会社リトゥンアフターワーズ、
株式会社シアタープロダクツ、有限会社ベースシックス、株式会社インファス・ドットコム、他

カタログ

カタログ

『Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続』

企画・構成・監修：深井晃子（京都服飾文化研究財団）

編集：石関亮、新實五穂（京都服飾文化研究財団）、京都国立近代美術館

カタログ・デザイン：西岡勉

出版：京都服飾文化研究財団

2014年3月発行予定 価格等詳細未定

『Future Beauty：日本ファッションの未来性』

監修：深井晃子（京都服飾文化研究財団）

編集：キャサリン・インス（パービカン・アート・ギャラリー）

新居理絵（京都服飾文化研究財団）

出版：平凡社 2012年

ISBN：978-4-582-62054-2

価格：2,800円＋消費税

参考書籍

『+Future Beauty：日本ファッションの未来性』

監修：深井晃子（京都服飾文化研究財団）

編集：石関亮、蘆田裕史（京都服飾文化研究財団）

出版：平凡社 2012年

ISBN：978-4-582-62055-9

価格：1,000円＋消費税

関連企画（予定）

本展関連企画として連続レクチャー、ワークショップ等を実施します。なお、内容につきまして一部変更する場合がございます。詳細はKCIウェブサイト（<http://www.kci.or.jp/>）にてご確認ください。

特別講演

日時：4月5日（土）14時～15時半

講師：クリス・デルコン（テート・モダン館長）

連続レクチャー 第一回

日時：3月22日（土）14時～15時半

講師：串野真也（MASAYA KUSHINO デザイナー）× 細尾真孝（株式会社細尾 取締役）

連続レクチャー 第二回

日時：4月19日（土）14時～15時半

講師：森永邦彦（ANREALAGE デザイナー）

連続レクチャー 第三回

日時：5月3日（土）14時～15時半

講師：堀畑裕之+関口真希子（matohu デザイナー）

子供のためのワークショップ

日時：4月20日（日）午後

会場———京都国立近代美術館 1階 講堂

入場料———無料 *但し、展覧会入場半券を提示頂きます。またワークショップでは材料費を頂戴する場合があります。

申込方法———事前申込制

詳細については決定次第、京都服飾文化研究財団(KCI)ウェブサイトにてお知らせします。

お問い合わせ———京都服飾文化研究財団（KCI）

連絡先———TEL：075（321）9221、FAX：075（321）9219

展示デザイン

藤本壮介（建築家）

1971年、北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。藤本壮介建築設計事務所主宰。代表作に情緒障害児短期治療施設（2006年）、武蔵野美術大学 美術館・図書館（2010年）、Serpentine Gallery Pavilion 2013（2013年）。2011年、台湾タワー・コンペに優勝。2012年、第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞受賞。主著に『原初的な未来の建築』（INAX出版）、『建築が生まれるとき』（王国社）、作品集「El Croquis 151: Sou Fujimoto (El Croquis)」、 「SOU FUJIMOTO RECENT PROJECT(A.D.A. EDITA Tokyo)」他。

京都服飾文化研究財団とは

京都服飾文化研究財団（KCI）は1978年の設立以来、私たちの衣服の源泉である西欧の服飾、服飾に関する文献や資料を体系的に収集・保存し、研究・公開しています。

現在、17世紀から現代までの服飾資料約1万3千点を所蔵。その中にはコム・デ・ギャルソンからの寄贈品1千セットを筆頭に、イッセイ・ミヤケ、ヨウジ・ヤマモト、さらにはシャネルやルイ・ヴィトンからの寄贈品も含まれます。メトロポリタン美術館などの美術館からたびたび貸出要請を受けるなど、コレクションは世界的に高く評価され、代表的なコレクション約500点を掲載した『ファッション 京都服飾文化研究財団コレクション 18世紀から現代まで』（タッシェン 2002年）は40万部に達しました。

KCIの総合的なファッション展は、タイムリーに服飾の多面的な相貌を展望します。これまでに実現した「モードのジャポニスム」「身体の夢」「COLORS ファッションと色彩」「ラグジュアリー：ファッションの欲望」など、他館と共催した大規模な企画展は、新しいファッション展への流れをリードしています。

なかでも京都国立近代美術館とは、まだファッションが国内の公立美術館では取り上げられていなかった1980年からコラボレーションしてきました。美術館という文脈の中でファッションは何を語るのか、共にその可能性を追求しています。

広報用画像



①



②



③



④



⑤



⑥



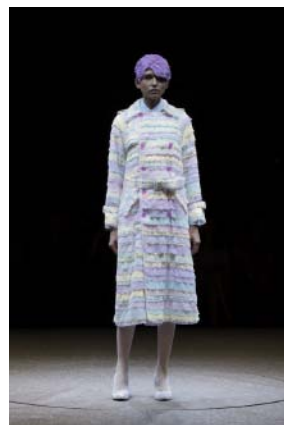
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展 写真クレジット

①COMME des GARÇONS / 川久保玲 1983年秋冬 京都服飾文化研究財団所蔵、株式会社コム デギャルソン寄贈、林雅之撮影 ②Yohji Yamamoto / 山本耀司 1983年春夏 京都服飾文化研究財団所蔵、小山壽美代氏寄贈、広川泰士撮影 ③JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS / 渡辺淳弥 2009年秋冬 京都服飾文化研究財団所蔵、林雅之撮影 ④COMME des GARÇONS / 川久保玲 2012年秋冬 京都服飾文化研究財団所蔵、林雅之撮影 ⑤Pleats Please Issey Miyake / 三宅一生 《PLEATS PLEASE: Making Process 2012》1992年 / 2012年 ©三宅一生デザイン文化財団、吉永恭章撮影 ⑥mintdesigns / 勝井北斗+八木奈央 《アーカイブドレス》2012年 ©mintdesigns ⑦Yohji Yamamoto / 山本耀司 1995年春夏 京都服飾文化研究財団所蔵、島山崇撮影 ⑧Koji Tatsuno / 立野浩二 1993年秋冬 京都服飾文化研究財団所蔵、立野浩二氏寄贈、広川泰士撮影 ⑨matohu / 堀畑裕之+関口真希子 2007年秋冬 ©matohu ⑩ANREALAGE / 森永邦彦 2013年秋冬 ©ANREALAGE ⑪writtenafterwards / 山縣良和 collection#07 THE SEVEN GODS -clothes from chaos- ©writtenafterwards ⑫横尾春央留 撮影：ホンマタカシ 2009年 ©Takashi Homma

*複数枚で使用の場合、クレジットラインの一部表記が重なるならば、まとめて一つの表記でも結構です。

【例】写真1～3を使用した場合のクレジットライン

- ①COMME des GARÇONS / 川久保玲 1983年秋冬 株式会社コム デギャルソン寄贈
 - ②Yohji Yamamoto / 山本耀司 1983年春夏 小山壽美代氏寄贈
 - ③JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS / 渡辺淳弥 2009年秋冬
- 写真①～③は京都服飾文化研究財団所蔵、写真①③は林雅之撮影、写真②は広川泰士撮影

広報用素材のお問い合わせ

「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展の広報用素材として、前ページの図版データを用意しております。ご希望の方は、別紙「画像請求申込書」に必要事項をご記入の上、FAX にてご連絡ください。

京都服飾文化研究財団 FAX：075（321）9219

京都国立近代美術館 FAX：075（771）5792

お問い合わせ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL 075（761）4111

FAX 075（771）5792

e-mail info@ma7.momak.go.jp

HP <http://www.momak.go.jp>

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

〒600-8864 京都市下京区七条御所ノ内南町 103

TEL 075（321）9221

FAX 075（321）9219

e-mail info@kci.or.jp

HP <http://www.kci.or.jp>

「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展 画像申込書

本展広報用として作品画像 12 点をご用意しております。ご希望の際は下記に必要事項をご記入の上、ファックス又は E メールにてお申し込みください。

F A X：京都服飾文化研究財団 (KCI) 075-321-9219
又は **F A X：京都国立近代美術館 075-771-5792**

E メール：京都服飾文化研究財団 (KCI) info@kci.or.jp
又は **E メール：京都国立近代美術館 info@ma7.momak.go.jp**

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① 画像送付の際、キャプションを併せてご送付いたします。キャプションは作品の下に、作家名、作品名、制作年、収蔵先、撮影者等を必ず表記ください。
- ② 画像のトリミング、文字載せは基本にお断りいたします。

本展記事を掲載された場合、恐れ入りますが、掲載誌（紙）、DVD、CD 等を KCI、又は京都国立近代美術館宛にご送付ください。

紙名・雑誌名・番組名・サイト名

種別 (○をつけてください)
TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日

御社名 **ご担当者名**

E メールアドレス

ご住所 〒

電話番号 **FAX**

で囲んだ項目は、必須項目です。

図版番号 (ご希望の図版番号に○をつけてください)

- | | | |
|----|----|-----|
| 1. | 5. | 9. |
| 2. | 6. | 10. |
| 3. | 7. | 11. |
| 4. | 8. | 12. |

読者プレゼント用展覧会チケット

ご希望の方は下記に枚数を明記ください。最大 10 枚 (5 組 10 名様) とさせていただきます。